

業務実績報告書

提出日 2020 年 1 月 14 日

1. 職名・氏名 准教授・山下知晃

2. 学位 学位 博士、専門分野 経済、授与機関 京都大学、授与年月 2017年5月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
2019年度
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記原理（単位数：4単位）主たる配当年次：1年（2019年度）
②内容・ねらい（自由記述） 簿記の初学者を対象に複式簿記の基本的な仕組みや各種重要な取引の処理方法などを講義することがねらいである。本講義は、簿記の入門的な知識から日商簿記3級程度の知識を主たる学習内容としている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、学期末の試験だけではなく、中間試験を実施し、理解度が不十分に学生に対しては再試験を実施した。今年度は昨年に引き続き、板書を中心とした講義を行った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論Ⅰ（単位数：2単位）主たる配当年次：1年（2019年度）
②内容・ねらい（自由記述） 本講義では、簿記原理の内容(日商簿記3級レベルの内容)を理解していることを前提に日商簿記2級レベルの内容を習得することをねらいとしている。本講義は実質的に簿記論Ⅱ(2年生の前期)と連続した内容となっており、株式会社簿記論の前半部を主たる学習内容とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、学期末の試験だけではなく、中間試験を実施した。昨年同様、「簿記原理」の様子を踏まえ、①スライドは使用せず、板書を中心の講義を行い、②講義資料を昨年度から大幅に改訂し、穴埋め式の講義レジュメを活用した。③今年度は中間試験の再試験を実施せず、演習課題を課した。④受講生のモチベーションを高めるために、実務家による講義を実施した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論Ⅱ（単位数：2単位）主たる配当年次：2年次（2019年度）
②内容・ねらい（自由記述） 本講義では、簿記原理の内容(日商簿記3級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記2級レベルの内容を習得することをねらいとしている。本講義は実質的に簿記論Ⅱ(1年生の後期)と連続した内容となっており、株式会社簿記論（工業簿記の範囲は除く）の後半部を主たる学習内容とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、今年度は期末試験に加えて、中間試験を実施した。成績不良の学生も途中であきらめてしまうことの無いように成績評価方法を工夫し、最後まで講義へのモチベーションを維持できるように工夫を行った。積極的に学生の学習を支援した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（単位数：4単位）主たる配当年次：3年（2019年度）

<p>②内容・ねらい（自由記述） 前期は基本的なテキストの輪読を通じて、現代の企業会計（主として財務会計）の基本を習得することを目的とし、後期はより発展的なテキストの輪読を通じて、次年度の卒業研究に向けての専門的な知識を身に着けることを目的として演習を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・前期は桜井（2019）を利用した輪読を行い、企業会計の基本を学習できるようにした。後期は財務諸表分析のテキストを用いた輪読を行い、卒業研究実施に向けた知識を習得できるようにした。今年度は人数が例年より少なかったため、可能な限り全員にゼミ内での発言の機会を設けるようにした。 ・報告者に対しては必ずゼミでの報告後にレジュメを教員に提出してもらい、教員からの補足説明と添削を行った上でフィードバックを行った。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ（単位数：4単位）主たる配当年次：4年 （2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 前期は財務諸表分析に関する発展的なテキストを輪読し、後期より卒業研究の進捗確認、完成に向けての指導を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・前期は卒業研究の準備となるように財務諸表分析に関するテキスト（桜井久勝著）を用いて基本的な学習事項を確認した。 ・後期はゼミ生を2グループに分け、卒業研究完成に向けて指導を行った。今年度はグループが少なかったこともあり、毎回のゼミで卒業研究の進捗報告を求めた。</p>
<p>2018年度</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記原理（単位数：4単位）主たる配当年次：1年 （2018年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 簿記の初学者を対象に複式簿記の基本的な仕組みや各種重要な取引の処理方法などを講義することがねらいである。本講義は、簿記の入門的な知識から日商簿記3級程度の知識を主たる学習内容としている。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、学期末の試験だけではなく、中間試験を実施し、理解度が不十分に学生に対しては再試験を実施した。今年度は板書を中心とした講義を行い、テンポの良い講義を心がけた。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論Ⅰ（単位数：2単位）主たる配当年次：1年（2018年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 本講義では、簿記原理の内容（日商簿記3級レベルの内容）を理解していることを前提に日商簿記2級レベルの内容を習得することをねらいとしている。本講義は実質的に簿記論Ⅱ（2年生の前期）と連続した内容となっており、株式会社簿記論の前半部を主たる学習内容とする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、学期末の試験だけではなく、中間試験を実施した。中間試験で理解が不十分な学生については追試験を課すことになっている。昨年同様、「簿記原理」の様子を踏まえ、①スライドは使用せず、板書を中心の講義を行い、②講義資料を昨年度から大幅に改訂し、穴埋め式の講義レジュメを活用した。③中間試験についても、やや評価を厳しくして、学生の学習への取り組みを促すように努めた（ただし、③については学生の意見もふまえて、来年度は実施方法の再考を行う予定である。）。</p>

<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論 II（単位数：2 単位）主たる配当年次：2 年次（2018 年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 本講義では、簿記原理の内容(日商簿記 3 級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記 2 級レベルの内容を習得することをねらいとしている。本講義は実質的に簿記論 II(1 年生の後期)と連続した内容となっており、株式会社簿記論（工業簿記の範囲は除く）の後半部を主たる学習内容とする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、今年度も昨年度同様、数回の理解度テストと期末レポートを実施した。成績不良の学生も途中であきらめてしまうことの無いように成績評価方法を工夫し、最後まで講義へのモチベーションを維持できるように工夫を行った。積極的に学生の学習を支援した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 I（単位数：4 単位）主たる配当年次：3 年 （2018 年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 前期は基本的なテキストの輪読を通じて、現代の企業会計（主として財務会計）の基本を習得することを目的とし、後期はより発展的なテキストの輪読を通じて、次年度の卒業研究に向けての専門的な知識を身に着けることを目的として演習を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は須田・桜井（2018）を利用した輪読を行い、企業会計の基本を学習できるようにした。前期には簿記の知識に不安を覚える学生向けにサブゼミを行い、簿記・会計の学習を支援した。後期はやや実務よりのテキストを用いた輪読を行い、より高度な財務会計の知識を習得できるようにした。今年度はやや演習内での発言が少なめであったため、質問シートを活用するなど学生から意見が出やすいように工夫を行った。 ・前後期ともに、①学習内容と関連する新聞記事の紹介を行い、学んでいる内容と現実における課題点とのつながりを意識した演習を行った。また、②報告者に対しては必ずゼミでの報告後にレジュメを教員に提出してもらい、教員からの補足説明と添削を行った上でフィードバックを行った。
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 II（単位数：4 単位）主たる配当年次：4 年 （2018 年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 前期は財務諸表分析に関する基本的なテキストを輪読し、後期より卒業研究の進捗確認、完成に向けての指導を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は卒業研究の準備となるように財務諸表分析に関するテキスト（太田康弘著）を用いて基本的な学習事項を確認した。 ・後期はゼミ生を 3 グループに分け、卒業研究完成に向けて指導を行った。可能限り、ゼミ生全員での議論+教員による個別の助言を組み合わせ、比較的うまくいっているグループについてはより完成度が高くなるように、あまりうまくいっていないグループについては卒業研究としての水準が達成できるように指導を行った。
<p>2017 年度</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記原理（単位数：4 単位）主たる配当年次：1 年 （2017 年度）</p>

<p>②内容・ねらい（自由記述） 簿記の初学者を対象に複式簿記の基本的な仕組みや各種重要な取引の処理方法などを講義することがねらいである。本講義は、簿記の入門的な知識から日商簿記 3 級程度の知識を主たる学習内容としている。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、学期末の試験だけではなく、中間試験を実施し、理解度が不十分に学生に対しては再試験を実施した。今年度はスライドを中心とした講義を行い、テンポの良い講義を心がけた。また、交換留学生・聴講生についても他の学生同様、質問を受けたり、試験を実施してフィードバックを行うなど他の学生同様の配慮を行った。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論 I（単位数：2 単位）主たる配当年次：1 年（2017 年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 本講義では、簿記原理の内容（日商簿記 3 級レベルの内容）を理解していることを前提に日商簿記 2 級レベルの内容を習得することをねらいとしている。本講義は実質的に簿記論 II（2 年生の前期）と連続した内容となっており、株式会社簿記論の前半部を主たる学習内容とする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、学期末の試験だけではなく、中間試験を実施した。中間試験で理解が不十分な学生については追試験を課すことになっている。また今年度は講義内での演習を重視し、計 5 回の演習の実施と取り組んだ演習課題の提出を求めた。昨年度はスライドを中心とした講義であったが、今年度前期「簿記原理」の様子を踏まえ、①スライドは使用せず、板書を中心の講義を行い、②講義資料を昨年度から大幅に改訂し、穴埋め式の講義レジュメを活用した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論 II（単位数：2 単位）主たる配当年次：2 年次（2017 年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 本講義では、簿記原理の内容（日商簿記 3 級レベルの内容）は理解していることを前提に日商簿記 2 級レベルの内容を習得することをねらいとしている。本講義は実質的に簿記論 II（1 年生の後期）と連続した内容となっており、株式会社簿記論（工業簿記の範囲は除く）の後半部を主たる学習内容とする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が学習内容の定着を図ることができるように、今年度も昨年度同様、数回の理解度テストと期末レポートを実施した。成績不良の学生も途中であきらめてしまうことの無いように成績評価方法を工夫し、最後まで講義へのモチベーションを維持できるように工夫を行った。積極的に学生の学習を支援した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 I（単位数：4 単位）主たる配当年次：3 年（2017 年度）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 前期は基本的なテキストの輪読を通じて、現代の企業会計（主として財務会計）の基本を習得することを目的とし、後期はより発展的なテキストの輪読を通じて、次年度の卒業研究に向けての専門的な知識を身に着けることを目的として演習を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・前期は川本淳他『はじめて出会う会計学（新版）』（有斐閣）を利用した輪読を行い、企業会計の基本を学習できるようにした。前期には簿記の知識に不安を覚える学生向けにサブゼミを行い、簿記・会計の学習を支援した。後期は桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社）の輪読を</p>

行い、より高度な財務会計の知識を習得できるようにした。後期は内容が難しくなったこともあり、学生の演習内での発言が減る傾向にあったため、演習の後半に質問事項を紙に書いてもらうなどの工夫を行った。

・前後期ともに、①学習内容と関連する新聞記事の紹介を行い、学んでいる内容と現実における課題点とのつながりを意識した演習を行った。また、②報告者に対しては必ずゼミでの報告後にレジュメを教員に提出してもらい、教員からの補足説明と添削を行った上でフィードバックを行った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習 II（単位数：4 単位）主たる配当年次：4 年 （2017 年度）

②内容・ねらい（自由記述）
簿記についてより発展的な演習を行った。受講生のバックグラウンドも考慮した上で、日商簿記 3 級レベルの知識をベースに日商簿記 2 級の内容について学習を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・前期および後期（途中）は昨年度の学習内容を発展させ日商簿記 2 級（商業簿記）の学習を行った。リース会計・連結会計・外貨換算会計など技術的にやや難しい内容まで含めて受講生に報告を行ってもらいながら演習を進めた。後期は商業簿記の学習だけではなく工業簿記についての学習も行った。受講生のこれまでの学習履歴を考慮して、少し優しい内容のテキストを選び、2 名の受講生に交互に（場合によっては両名に）報告を行ってもらった。
・前後期ともに演習内で練習問題を解いてもらうように努め、簿記の基本的な内容を深めてもらえるように工夫を行った。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名

②内容・ねらい（自由記述）

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

④本学における業務との関連性（自由記述）

(3)その他の教育活動

内容

（2019 年度）京都大学経営管理大学院『会計学特論』内（11/24 実施）で大学院生向けに非常勤講師（講演）を行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①論文

（タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名（号数）、掲載（受理）年月日）

『固定資産の減損会計と財務会計の契約支援機能』博士論文、2017 年

「減損損失の認識とその適時性」『企業会計』第 69 巻第 4 号, pp.490-496, 2017 年.

「固定資産の減損会計が財務会計の契約支援機能において果たす役割－株式会社トクヤマの事例分析」『経済経営研究』第 35 号, pp.31-49, 2016 年.

「連続した減損損失計上に関する実証分析－連続した減損損失の計上と利益平準化の関係について」『経済経営研究』第 34 号, pp.29-46, 2016 年.

<p>②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名) 徳賀芳弘監修『京都企業：歴史と空間の産物』、2016年、中央経済社。(第11章ならび第12章分担執筆)</p>
<p>③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) "Using a delisted sample to illustrate the usefulness of cash flow information", Joint Conference of 2015 Accounting Theory and Practice Conference、2015年12月。(本川勝啓氏との共同研究、報告はすべて山下が行った)</p>
<p>④その他の公表実績</p>
<p>(2)学会活動等</p>
<p>学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日)) 日本応用経済学会でのコメンテーター、担当「純粋持株会社による経営統合の事後評価に関する実証分析」、日本応用経済学会2018年度秋季大会、2018年10月27日。</p>
<p>学会での役職など(学会名)</p>
<p>学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)</p>
<p>(3)研究会活動等</p>
<p>①その他の研究活動参加(参加研究会名、調査活動名(期間)) 福井経営モデル研究会、2018年度 福井経営モデル研究会、2017年度 福井経営モデル研究会、2016年度</p>
<p>②その活動による成果</p>
<p>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</p>
<p>2019年度 戦略的課題研究推進支援事業 2019年度 科学研究費(若手B)継続 2018年度 戦略的課題研究推進支援事業 2018年度 科学研究費(若手B)継続 2017年度 科学研究費(若手B)配分額70万円 2017年度 教育研究費(若手B)研究費(D) [川本准教授との共同で取得] 2016年度 科学研究費(研究活動スタート支援)配分額110万円(間接経費含) 2015年度 第15回若手研究者奨励研究(日本会計研究学会)20万円 2015年度 科学研究費(研究活動スタート支援)配分額120万円(間接経費除く)</p>
<p>(5)特許出願</p>

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 公開講座 [会計入門講座]、会計学基礎のキソ、福井県立大学、2019年6月8日 公開講座 [会計入門講座]、『利益』って何！？：会計利益とキャッシュフロー、福井県立大学、2018年6月23日 公開講座 [会計入門講座]、複式簿記の基礎のキソ、福井県立大学、2017年6月7日 公開講座・複式簿記基礎のキソ、福井県立大学、2016年5月28日
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 開放講義、県立大学、2017年10月27日 開放講義（経営学）、武生東高校、2016年11月11日
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間） 大学案内WG（2018年度-2019年度） 学生相談委員（2019年度） 新入生オリエンテーションツアー（2018年度-2019年度） 新入生オリエンテーションツアー・引率（2017年度-2018年度）※チーフ 新入生オリエンテーション合宿・引率（2016年度-2017年度） 学生相談委員（2017年度） 教職員バーベキュー実行委員(2017年度) 福井県立大学経済経営研究編集委員会（2015-2017年度） オープンキャンパス担当委員会（2015-2017年度年度）
(3)学内行事への参加 （行事名、参加日時） オープンキャンパス（模擬講義担当）、2019年8月4日
(4)その他、自発的活動など （活動名、活動内容、活動期間）